

BASIS ワークショップ

本年 10 月 30-31 日に札幌コンベンションセンターで BASIS-2004: Salmon and Marine Ecosystems in the Bering Sea and Adjacent Waters (ベーリング海と周辺海域におけるさけ・ます類と海洋生態系) が開催される。プログラムや参加申し込み方法などについては別記の通りである。

NPAFC-PICES 共同シンポジウム

2005 年秋に韓国ソウルで開かれる予定の第 13

回 NPAFC 年次会議に併せて、NPAFC と PICES による共同シンポジウムを開催することで検討を開始した。シンポジウムのタイトルは「太平洋サケの現状と北太平洋生態系における役割(the status of Pacific salmon and their role in North Pacific ecosystems)」で、1) 太平洋サケの資源量と生物学的特徴、2) 北太平洋生態系機構における太平洋サケの役割、3) 北太平洋生態系の指標としての太平洋サケをトピックスとして扱う。

NPAFC 国際ワークショップのご案内

BASIS-2004: ベーリング海と周辺海域におけるさけ・ます類と海洋生態系 (Salmon and Marine Ecosystems in the Bering Sea and Adjacent Waters)

日時：2004 年 10 月 30-31 日

会場：札幌コンベンションセンター（小ホール）

背景と目的

過去 10 年間にアジアや北米系さけ・ます類の多くの個体群において海洋成長や生残の大きな変動がみられ、これらはベーリング海や周辺海域の生態系変動と関連していると考えられています。しかし、ベーリング海におけるさけ・ます類や環境に関する科学的モニタリングシステムが不足していたため、どのような環境変動が起き、その変動がさけ・ます類資源にどのような影響を与えているのかについては不明でした。2002 年に北太平洋湖河性魚類委員会(NPAFC)のコーディネートによる「ベーリング海・アリューシャンさけ・ます国際共同調査(BASIS)」が開始されました。この共同調査は、気候変動によりもたらされる海洋環境に対するさけ・ます類の生物学的応答機構を明らかにすることを目的としており、1) さけ・ます類の季節的移動とベーリング海生態系との関係、2) ベーリング海における生物生産とさけ・ます類の成長に及ぼす要因、3) ベーリング海を主な生息場とするさけ・ます個体群間の資源変動の類似性と生残傾向に関連した共通要因、4) さけ・ます類を生産するベーリング海的环境収容力、に関する調査が含まれています。今回のワークショップは、BASIS や他の調査により得られた情報と新たな問題点を論議し、将来の研究計画に反映させるために開催されます。



図1. 水産庁調査船「開洋丸」によるベーリング海さけ・ますトロール調査(2002年9月)。



図2. 開洋丸のトロール網で採集されたベーリング海に生息するさけ・ます類やキタノホッケ。

プログラム

10月30日 9:30-17:00

● セッション-1: 基調講演

- Fran Ulmer (NPAFC 米国代表): 国際的科学的協力
のモデルとしての BASIS
- Olga S. Temnykh (TINRO-Centre, Russia): 極東海
域の遠洋性魚類群集におけるさけ・ます類の現況

● セッション-2: BASIS 調査の国別レビュー

● セッション-3: ベーリング海における海洋環
境と基礎生産

● セッション-4: さけ・ます類の摂餌生態と餌
生物の分布

18:00-20:00 レセプション(サッポロビール園)

10月31日 9:30-18:00

● セッション-5: さけ・ます類の分布と移動

● セッション-6: さけ・ます類の成長とエネル
ギー

● セッション-7: さけ・ます類の標本データ,
採集具と分析の標準化

● パネルディスカッションと要約

* 両日ともポスターセッションが開催されます。

参加申込

NPAFC の WEB サイト(<http://www.npafc.org>)より参加申込書を入手し、必要事項を記入して NPAFC 事務局に FAX (+1-604-775-5577)かメール (secretariat@npafc.org)で9月30日までに送付ください。参加料はレセプションを含めて 100US ドルです(学生は 55 ドルでレセプションに参加しない場合は 10 ドル)。プログラムや要旨など詳細は NPAFC の WEB サイトをご参照ください。

日本国内問い合わせ先

〒085-0802 釧路市桂恋 116

独立行政法人北海道区水産研究所

浮魚頭足類研究室内

NPAFC BASIS ワークショップ運営委員長

東屋 知範

TEL (0154) 92-1715

azumaya@fra.affrc.go.jp

(遺伝資源研究室 浦和茂彦)